



金沢市

組織名	農事組合法人せせらぎ(代表:下村 繁之)	農業地域類型	平地農業地域
経営理念	一日も早い次世代への承継	組合員	92名(役員9名、主たる従事者15名)
経営面積	39ha(主食用米39ha、切り花ハボタン5a)		

1. 法人設立や事業活用の経緯・概要

- 平成19年1月、金沢市松寺町にあった唯一の営農組織の経営の継続が困難になり、今後の地域の営農について相談を受けたことをきっかけに、**1集落1農場の考え**のもと、任意組織である集落営農組合を設立した。
- 集落の合意を得て、任意組織設立から約10年後の平成30年に(農)せせらぎとして法人化。
- 若手構成員(50代、60代)は主に機械のオペレーターを務め、ハウスの管理等は女性を含めたその他の構成員で行っている。
- 令和4~5年度にかけて、近隣集落からの土地を引き受けたことで耕作面積が急激に拡大したため、機械やハウスのさらなる導入を目指して集落営農活性化プロジェクト促進事業を活用し始める。
- 本事業において導入したパイプハウスでは**切り花ハボタン**を栽培しており、高収益化に成功している。
- 本事業で導入したフロントローダを活用して水田の畦(田んぼの境目の土手)を取ることで、一枚あたりの水田面積を拡大している。

2. 課題と対策

- 中核の構成員の年齢が80歳近くと高齢化しており、**後継者育成が最重要課題**である。将来的に株式会社にすることで、**組織の意思決定に対する集落内での合意形成のハードルを下げ**、若者が承継しやすい環境にすることを旨とする。
- 水田の除草剤散布や追肥に時間を要するため、ドローン面積を拡大し作業の効率化を図ることを検討している。



主たる従事者の方々



出荷作業の様子

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 稲作の労力がかからない時期に水稲の育苗ハウスを活用できないかと考え、令和4年頃からJAや県に相談し、お正月の時期に大量に需要があり、時期に合わせて出荷すれば高単価が狙える切り花ハボタンの栽培を始めた。
- 県農林総合事務所作成の切り花ハボタンの栽培マニュアルをもとに栽培や出荷を行い、1年目から高収益化に成功**。集落営農活性化プロジェクト促進事業における「高収益作物等の導入・拡大」の成果目標を毎年達成しており、令和8年度は当初の成果目標を引き上げたうえでの達成を目指している。
- 切り花ハボタンの収穫は12月初旬~下旬の短期集中型であるため、集落内から手伝いを募り、作業が滞りなく行えるようにしている。
- 将来的な機械オペレーターの候補として、若手構成員(50代)の息子(20代)を講習会に参加させる等、後継者の育成を行っている。

「高収益作物等の導入・拡大」の達成状況

	R6実績	R7目標	R8目標
値 (%)	168	169	246 (当初207)

※R5時点の現状値を100%とする

4. 今後の目標

- 組合員全員の合意が必要となる農事組合法人から、意思決定のスピードアップが図れる株式会社に組織変更するなどし**後継者が経営改善できる環境を整備**する。
- 人数は変えずに構成員ぐるみの作業体系から必要最小人数での作業体系に移行しつつ、作業時間を削減**することで、事業における省力化の成果目標達成を目指す。



事業で導入したハウス内で栽培する切り花ハボタン

